群馬県立沼田高等学校（全日制）　学校評価一覧表　（令和５年度版）

（別紙様式）

羅針盤							
評価対象	評価項目	具体的数値項目	方策	点検・評価 自己評価	点検・評価 外部アンケート等	達成度 総合	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①文武両道を日々心がけて学校生活をすごしている生徒が70%以上である。	学校全体で文武両道の行動規範を推奨し、生徒が１日の中での文武両道を意識して、主体的に日々の学習と部活動に取り組むよう支援する。	A	A	A	目標数値項目の70%は越しているが、生徒の若干数値が減少している。まずは生徒の意識を高めるために、教職員がどのように生徒に働きかけるかの仕掛けを学校全体で検討し、一日の中での文武両道の意識を高めていきたい。	・多くの生徒が文武両道を実践している。・「文」及び「武」の在り方が多様化しており、評価等もより柔軟性を持たせるとよい。
		②「五常の教え」を理解し、挨拶や清掃を積極的に行っていると答える生徒が80%以上である。	折に触れ、「五常の教え」について意識させ、学校行事などで更に浸透を図る。教職員自ら手本となり全員で挨拶の励行と清掃活動に取り組む。	A	A	A	ほとんどの生徒・教職員が挨拶・清掃活動に積極的に取り組んでいると答えている。「五常の教え」については、引き続き教育活動の中心の１つに「五常の教えを身に付けた生徒の育成」を基本方針とし、学校全体で意識を高めていきたい。	・「五常の教え」の理解の共有が必要・良き伝統として統合後も取り組んでほしい。・沼高生によく浸透している。
		③栄養バランスに配慮した規則正しい食生活を送っている生徒が80%以上である。	食育に関する「食と健康」や保健に関する「保健便り」などの広報誌を発行し食事の重要性について、各家庭や生徒に訴えたり、「料理講習会」などの食に関する行事を行ったりする。	A	A	A	目標数値項目の８０％を超しており、多くの生徒が規則正しい食生活を送っている。次年度以降も広報誌「食と健康」や「保健だより」のでの広報活動や「料理講習会」等の行事により、食の意識を高めていく活動を継続したい。	・引き続き家庭との連携・情報発信を続けてほしい。
		④自分の学校が好きだと感じている生徒は、80%以上である。・	生徒が日々の学習活動及び学校行事や部活動等に主体的に取り組める雰囲気を醸成し、学校生活の中で楽しさや充実感を感じるような教育活動の場面を大切にする。	A	A	A	目標数値項目の８０％を越してはいるが、若干その数値が減少しているので、注意が必要である。次年度は男子校として最後の年となるので、様々な教育活動の場面でそのことに触れ、充実感や自己肯定感が高まる教育活動を実施していきたい。	・統合前に入学した生徒達の愛校心が高まるようにしてほしい。・充実感のある学校生活が送れているように感じる。
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤学習上の疑問に教科担当者が丁寧に答えてくれると感じている生徒が80%以上である。	職員が日頃の授業の様子や学びの基礎診断テストツールの結果などから、生徒の学習状況を把握し、個々の学習レベルに合わせ、生徒の疑問にわかりやすく答える。	A	A	A	学校生活の授業前後や昼休み、放課後と担任や教科担当の先生方が面談の時間を確保し、生徒の実態を把握したり、教科の質問に対して回答したりしていた。全教職員の協力により、次年度も継続していきたい。	・組織的な支援体制が生かされている。・先生方の熱心さが伝わる。・丁寧な個に応じた指導を今後もお願いしたい。
		⑥少人数・習熟度別授業を肯定的に受けとめている生徒が80%以上である。	少人数・習熟度別授業のメリットを活かした授業内容や進度について、各教科で検討し、主体的で対話的な深い学びに繋がるよう授業改善に努める。	A	A	A	数学科と英語科で少人数・習熟度別の授業を展開し、きめ細かい指導を実施していた。進研模試において、数学は継続して結果を残しており、英語は１・２年生の模試結果が上昇した。次年度もさらなる向上を期待したい。	・アンケート結果から取り組みの効果がうかがえる。・生徒の理解度に合わせた指導の効果が高い。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦授業で学習した内容の理解を深めるため、PDCAサイクルを意識して、家庭での学習に取り組んでいる生徒が70%以上である。	授業内容と連動した有効な家庭学習課題を授業計画に組み入れる。また、家庭学習でクロムブックを有効に活用し、学び直しに繋がるような学習課題を設定し、一人一人の家庭での学習時間を増加させる。	C	B	C	本年度第１回と比較して、生徒の数値は上昇しているが、依然として生徒・保護者と教職員との間に意識の隔たりがあった。次年度は、家庭学習の習慣が身に付いていない生徒へ向けた取り組みを実施していきたい。	・動機付けとなる取り組みが必要。・必要感が向上するような授業改善に期待・習慣付けとなるような指導、支援を期待。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧学級担任による個人面談が効果的と答えている生徒が80%以上である。	「青春の志」実現計画を踏まえ、年３回の二者面談週間や各担任との面談を通して、生徒の学習面・生活面について把握し、各自の課題に合った適切な指導を行う。	A	A	A	アンケート結果から、効果的であると回答している割合は生徒が９０％超、保護者も９０％弱という高い数値であった。二者面談期間や三者面談のみならず、担任が日頃から面談を実施し、学習面だけでなく生活面の支援をしており、今後も継続していきたい。	・個人面談の成果は評価に値する。・信頼関係が生まれているように感じられる。・二者面談週間、個人面談はよい取り組みだと感じた。継続してほしい。
		⑨学年会議や分掌の会議での生徒に関する情報交換が生徒への細やかな対応に反映していると感じている職員が90%以上である。	気になる生徒について、学年会議や分掌会議での情報を共有するとともに、生徒の些細な変化や悩みなどに速やかに対応する。学年と分掌が互いに得た情報をフィードバックするとともに管理職も含めた組織的な指導を行う。・	A	B	A	職員の連携が指導に結びついているいると感じている職員が約９６％と高く、分掌会議や学年会議での情報共有が細やかな指導に結びついている。また、些細な生徒の変化についても情報を共有し、指導に当たっている。管理職も含めた組織的な指導を継続していきたい。	・日頃からの職員間の連携の良さが感じられる。・質問項目がわかりづらいので、具体的な内容にしたほうがよい。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑩いじめを容認しない校風づくりと、いじめの未然防止･早期発見･早期対応に取り組んでいると理解している生徒保護者が80%以上である。	本校のいじめ防止プログラムに取り組むとともに、校内職員研修を定期的に行う。学期に１回以上、いじめアンケートを行い、いじめの早期発見と早期対応を図る。また５月・１２月の強化月間には正門・生徒玄関にのぼり旗を立てて啓発を図るとともに保護者にも学校ＨＰや一斉メールを通じて情報発信を行う。	A	B	A	今年度は２ヶ月に１回、定期的に職員研修を実施してきた。そのため、些細な生徒のトラブルも情報共有されるようになった。いじめ防止については、いじめ防止プログラムに沿って、いじめ防止活動を実施しているが、保護者への周知が依然として課題である。次年度は、さらに保護者学習会などでの呼びかけを行うなど、工夫していきたい。	・他項目のアンケート結果なども注視する必要がある。・具体的な対策が保護者には伝わっていない。・情報共有を図り、生徒の些細な変化を見逃さないでほしい。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪欠席・遅刻をせず、挨拶がきちんと励行できている生徒が80%以上である。	学年や各分掌を中心に、面談等あらゆる場面で生徒の健康管理や規則正しい生活習慣について指導を行う。欠席遅刻が多い生徒に対しては、保護者と連携して指導していく。挨拶の励行については教職員側からの挨拶を心掛ける。	A	A	A	ほとんどの生徒が遅刻や早退をせずに登校している。遅刻、早退、欠席が続いた生徒には、担任が素早く面談等をして対応している。また、保護者との連携も速やかに行い、生徒の指導に生かしている。挨拶の励行については、引き続き教職員側からの挨拶を心掛けていきたい。	・沼高生の挨拶は素晴らしい。・生徒、保護者、職員のアンケート結果に差異がある。分析や検討を要請する。
		⑫月に２回のカウンセラーによる教育相談に理解を示す生徒保護者が80%以上である。	「カウンセラーだより」の配布やこころの教育事業を通じて気軽に相談できる雰囲気づくりに努める。	A	B	A	「カウンセラーだより」やこころの教育事業を通じて、スクールカウンセラーを身近に感じる機会を設けることができた。不登校や悩みをかかえる生徒、子どものことで悩んでいる保護者にとって、面談は大いに役立っている。気軽に相談できる体制を一層工夫していきたい。	・外部専門機関との連携を引き続きお願いしたい。・よい取り組みだと思うので、今後も継続してほしい。
		⑬先生方が親身になって相談に応じてくれると感じている生徒が70%以上である。	あらゆる場面で教職員からの積極的な声かけや二者面談を行い、学習面だけでなく、学校生活や日常生活についても話題に触れるようにする。生徒の些細な変化や行動を見逃さないよう、日頃から生徒の状況把握に努め、情報共有を図る。・	A	A	A	先生方が親身になって相談に乗ってくれていると感じている生徒は約９０％おり、日頃の声かけや面談が効果的に行われているものと思われる。生徒の諸課題に対して、教員一人が抱え込むことがないよう、学年や分掌で情報共有し、協働し生徒の指導・支援に当たっていく。	・よい関係がうかがえる。今後も適切な声かけをお願いしたい。・約２割の保護者が「わからない」と回答しているのは、要因の究明が必要。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭進路に関する学校または学年単位の指導が効果的と感じている生徒が70%以上である。	進路指導年間計画に基づき、各学年と連携して、３年間を見通した系統的、段階的な指導を展開する。	A	A	A	感染防止に努めつつ、概ね計画通りに実施できた。進路指導の核である担任による二者面談も、年間を通して実施できた。大学模擬授業、共通テスト事前指導等で、対面とオンラインの併用も進んだ。次年度も継続したい。	・生徒一人ひとりに細やかな指導があったと思う。・生徒と教員との信頼関係の深さがうかがえる。
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮「総合的な探究の時間」を通じ、研究テーマに関する興味関心が一層高まったと答える生徒が70%以上である。	「総合的な探究の時間」年間計画に基づき、課題設定、情報収集、探究活動等に主体的、協働的に取り組ませることを通して、生徒自身がキャリアプランを策定する能力を向上させる。	A	B	B	今年度は従来通りのゼミ形式に戻ったが、昨年に比べて生徒の数値が落ちた。また、保護者、職員に関しても同様に落ちた。改めて、ゼミでの活動内容や生徒が探究に向けて取り組める環境の整備などを考えていきたい。保護者へは引き続きHPを使用し生徒の様子がみられるように継続して行きたい。	・目標や意義など教員、生徒双方の共通理解が不可欠。・群馬や利根沼田の発見につながるようなものにしてほしい。
		⑯模擬試験を有効に活用し、進路選択に役立てている生徒が70%以上である。	進路指導年間計画に基づき、模擬試験を実施し、各学年で必要とされる基礎学力の定着と応用力の伸長を図る指針とする。さらに模試結果を活用した受験後の指導を充実させる。	A	A	A	模擬試験を主体的な進路実現の柱と位置づけ、生徒自身の学力把握、課題発見に活用した。教職員も模試分析を行い、職員会議、学力検討会等で情報共有を行い、その結果を教科指導等に活用した。次年度も継続したい。	・模試の有効活用が重要なことを気づかせる工夫が必要。・生徒の多様化に応じた模試の実施が必要。
	9 保護者に積極的に進路情報の発信をしていますか。	⑰保護者対象の進路学習会を、有意義だと感じている保護者が70%以上である。	進路学習会について、保護者が参加しやすい日程を検討し、各学年と連携し、時宜を得た進路情報をわかりやすく提供する。	A	A	A	外部講師を招いて、１・２学年の保護者学習会と、渉外部と連携した全学年対象の保護者進路講演会を実施した。第２回は、満足している保護者の割合が８０％を超えた。生徒と一緒に話を聞くことで家庭でも話題にしやすかったと考えられる。次年度も継続したい。	・情報発信するだけでなく、保護者が必要としている進路情報の見極めが肝要。・保護者進路講演会は継続してほしい。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱PTA総会やPTA保護者会、公開授業等への参加率が70%以上である。	生徒を通じた配布物に加えて、オクレンジャーなどを十分に活用し、各行事の日程や内容等について確実に保護者へ連絡するとともに、オンラインによる配信を充実させる。	A	A	A	年2回行われた公開授業には例年にも増して多くの保護者の参加をいただき、特に第2回は2日間で延べ３４９名の参加をいただいた。次年度も各PTA関連の行事連絡を配布物やオクレンジャーを用いて確実にし、参加率を高めていきたい。	・ＰＴＡの在り方を検討することは急務である。・公開授業の参加者が増えているのはよいことである。
		⑲図書館、桔梗館の一般開放に満足している参加者（生徒保護者を含む）が70%以上である。	図書館・桔梗館一般開放の日程をホームページ上に掲載したり、広報を作成したりするなどして、保護者、地域社会の方々に周知を図る。	A	B	A	保護者の数値が７０％を下回った原因は「わからない」の回答が２６％あったためだと思われる。図書館・桔梗館の一般開放の日時を周知するための方策を検討し、改善を図っていきたい。	・保護者の26%がわからないと回答したのはなぜか、精査が必要。
		⑳学校Webページに掲載された情報やｵｸﾚﾝｼﾞｬｰの連絡が役に立っているととらえる生徒保護者が80%以上である。	各分掌、学年、部活動等から集めた情報や連絡を迅速に適切に処理し、学校Webページ上やオクレンジャーを用いて確実に発信する。	A	A	A	いずれの対象も役に立っていると回答した数値が１００％に近くなっており、特に「A」を回答した数値は全質問項目の中で一番高い数字になっている。現在の取り組みを再検証しながら、次年度以降も継続していきたい。	・オクレンジャーは迅速、正確で非常に良い。・学校Webページは役に立った。・十分効果的な発信がなされている。
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉑ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	Google Classroom上の連絡や課題配信など、教員側の活用促進とともに、ICTを活用した授業を通じて生徒の情報活用能力も高めていく。	A	A	A	92.3%の生徒がICTを活用した授業に満足している。Google for Educationやスタディサプリ等を積極的に活用し家庭学習の充実を図っている。来年度の入学生はBYODに切り替わるので、より個別最適化した学びを強化していきたい。	・来年以降ＢＹＯＤによる学習環境格差に配慮する必要がある。・保護者の経済的な負担に考慮してほしい。
		㉒ICTを使った授業が70%以上である。	ICTを効果的に活用した『主体的・対話的で深い学び』をテーマとした公開授業週間を実施し、職員間でICTの活用方法について積極的に意見交換を行う。	A	A	A	各学年の若手職員を中心に「ICTの活用」をテーマに研究授業および授業研究会を実施し、ICTの有効な活用方法について情報交換を行った。また、定期考査の採点業務の負担軽減に向けて自動採点システムを試験的に導入している。	・ＩＣＴ機器という手段が目的化しないように、その活用における研究、研鑽が必要である。
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉓ICTを活用した通知に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	Google for Educationのサービスを活用し、保護者通知や各種アンケート等のペーパーレス化を進め、従来の回収作業等の業務の負担を軽減していく。	A	A	A	今年度も学校評価アンケートはGoogle Formsで実施した。オンラインのアンケート調査は自由記述の回答が少なくなってしまうことが課題である。また、生徒の授業評価アンケートも今後はGoogle Formsに移行できるように準備していきたい。	・教員と生徒が向かい合う時間を増やすための業務改善であることを期待する。